

令和 5年度 園評価書

園番号

10

園名

静岡市立中薬科子ども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
自分が好き！ 友だちが好き！ 薬科が好き！	考える楽しさ を感じる 考えるって 面白〜い！	子ども達が繰り返し試したり、工夫したり、友達と相談できる環境が用意されている (時間・場所・教材など含)	職員間で、相談しながら発達と興味に合わせて教材提供とやり始めた遊びの継続、友達への関心を意識した環境構成を実施してきたことで、繰り返し楽しんだり相談し合う姿はあるが、年間を通して環境の再構成はあまり見られなかった。	B	B	学校でも、自分で決めてやり抜く子を目指している。そのためには、考えたり、意見を交わしたり、何回も試して確認していく力が必要となってくる。その基盤になることを目標に取り組んでいることで、中薬科地区の子ども達は15年間の一貫した教育の中で育てていると思う。地域としても学校と子ども園が同じ方向でこれからの見据えた教育をしていることは嬉しい。保護者としても色々な経験をさせてもらっていると感じている	毎日の振り返りで保育や子どもの様子について情報交換や語り合いをする中で、個々の性格を共有したり、環境構成や関りについて確認し合ったりしている。時間をかけて子ども理解をしていくことで、どの職員も一人一人を把握し大切に思っている向き合え、園全体で見ている保育が可能になっているので、時間の効率化を模索しながらこういう時間は大切に続けていく
		自分の思いや感じたこと、考えたことを行動や仕草、言葉で表現している	職員みんなで子ども達を見ている雰囲気があり、子ども達も担任以外の職員にも安心して声掛けや相談、思ったことを言っている。方法や表出できる相手が限定だったり個人差はあるものの表情も穏やかで思いが伝わるのが嬉しそうなお姿がたくさん見られるようになった。	A	A		
		友だちの良さに気づき、一緒に試行錯誤できる仲間づくりに向けての保育が展開されている	友だちと意気投合する時もあれば、勝手に進めてしまふ文句が出たり言い合いになる事もあるが、任せるといふ思いで見守り知恵やヒントを投げかけてみることで、折り合いをつけたり相手を受け入れて大きなトラブルに発展せずに遊んでいる。	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 子ども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	異年齢で関わり合える楽しさや面白さを感じられる環境が用意されている (あこがれやいたわりの気持ちを持つ心の育ちをサポートしていく)	日頃から異年齢で安心して関われる環境や雰囲気があるのは、中薬科子ども園の強みでもある。見合ったり、自由な行き来が出来る体制など、他の学年が取り組んでいることに関心を持つ機会があった。	A	A	・在園児は少ないが、だからこそ異年齢や個々を把握しての関りが園全体で、しかも自然と出来ることは中薬科子ども園の強みだと思う	引き続きお互い刺激し合うだけでなく助け合う、協力し合う、気づき合う等支えながら心の育ちに目を向けていく。
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	安心して過ごせるよう、一人一人の生活リズムを考慮した生活の流れや活動の時間を調整して対応している	A	A	・遊びの環境や考えさせる取り組みは子どもたちの姿や園の雰囲気、園庭の構成等で感じ、よくやっていると思う。特に気付かせていく関りは、口で言うより大変なことで、学校でも試行錯誤と意見交換をしながら課題として向き合っているところである。これから一緒に向き合っていく期待を込めてBとする。また、目標を達成していくためにもそこに関わる職員の方が大きく影響してくると考え、是非 研修の充実を図り更なる向上を目指すといいで	保護者にも、園で円滑に活動するのに家でのご過ごし方が影響することがある事実を伝えて、連携、協力を求めている。
		(3)環境を通して行う教育及び保育	気づいたり試したりする楽しさを感じられるような環境や関わりを考えて接したり対応したりしている	園内研修で職員間の共有を図り、気づいたり試したりする楽しさを感じられることを意識して環境構成を行ってきたが、繰り返し試しながらも気づいていくとさらに到達できないこともあった。	B	B	・安全管理での防災に関しては様々なパターンがあつてこうすればいいと言うものでもないし、その時その場で判断対応が求められる。計画や訓練通りにはいかない。とにかく訓練を積み重ね経験を増やしたり、各自の意識向上を維持していくことだと思
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	年間計画に沿って防災訓練の実施、遊具や玩具の点検、園周辺の避難経路や散歩路の安全確認等を行い職員が周知している	毎月予告なしで実施している訓練は、臨機応変の対応を学べた。避難経路はこれまで、誰まで、把握出来ているのか?共有や意識統一も含め、改めての確認が必要と感じる。	B	B	・小学校と子ども園が交流や情報共有など昨年度より関わり合える機会が増えている。来年度から小学校は3校が合併することで今まで以上に把握や対応等考慮や見通しが難しくなってきた。これからも交流や情報交換をしていけることを望みます	実際の時は、管理者や保育リーダーがいない場合に遭遇しても適切な判断が求められるので、訓練後に検討会や周知を促す時間を確保する。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	健康や食材に関心を示し、基本的な生活が身につけられるよう手立てを工夫して保育に取り入れている	栽培・食育集会 給食室との交流、地域の収穫体験などを通して、わかりやすさを意識した取り組みの工夫があり「健康」に関心は持った。基本的な生活習慣においては養護面を引き続き配慮していきたい。	B	A		基本的な生活習慣の自立に向けて、口での指示や手をかけすぎないかを見直していく。乳児からの積み重ねが大切！年齢や発達に応じた目標をたて、達成に向けた取り組みを記録しながら軌道修正していく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	発達にあった支援方法を共有し、自分の力で出来ることが増えていける援助を行う	職員間で相談やケース検討をする機会を設けて支援方法を検討してきた。場面に応じての関わり方は個人差もあるので、特に会議に参加しない職員への報告はわかりやすく丁寧に説明し、協力体制の強化を図りたい。	B	A		みんなで見合うため及び本人が迷わない為にも現状の報告と支援方法の共有、周知は必要。紙ベースだと理解に誤差が出るので、責任を持って報告する担当者を決める等新しい体制を試みる。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園務分掌担当者を中心に、見通しを持った企画と連携を意識した協力体制の下、時間を有効に使った取り組みを試行錯誤している	職員間で進捗状況等を確認しながら声を掛け合って取り組んできた。急な変更や追加など予定外のことが起きることを想定して、余裕を持った計画を立てたが、実際まで慌しいこともあったので、時間配分を含めた計画を検討していく	B	A		取りかかっている時間や企画が出る時期が協力体制に影響していると考えられるため、期日を決めて企画の決定、進捗状況の確認の強化を図っていく。
6 研修	(1)研修体制の充実	子ども達が自分の力を信じてやってみることが実現しているよう、職員が見取りの力をつけ関わっているための学び合いを重ねている	毎日の振り返りや意見交換は、担任の思いや子どもの変化等気付けなかったことを互いを知る機会になっている。今後も、意見交換で発信された言葉からヒントをもらって、対応の悩みや迷い、不安への対応に繋げられるよう学び合っていきたい。	B	B		報告や情報交換だけでなく学び合える会議や園内研修の持ち方を研修主任を中心に検討していく。内容だけでなく時間の確保も必要になる。(効率を意識した時間配分等含)
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	語り合いや意見交換を重ね、グランドデザインや保育改善構想を意識しながら、子ども達の発達や興味に合わせた環境構成及び環境の再構成をしている	毎日の振り返りや会議、園内研修での意見交換を重ね環境の再構成へも着手出来ている。会議に全員参加できればよいが正規職員だけになりがちであるため納得し合えるような工夫が必要である。	B	A		職員の意識向上と専門性の強化で子ども理解の質も変わってくる。園内研修の機会や方法、時間配分などみんなが参加できる方法を検討する。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	色々な手立てを考え、保護者と子育ての楽しさや喜び、悩みなどを共有している	日頃から電話対応や送迎時の挨拶、おたよりやスマイル、連絡帳等で情報や様子を知らせている。会話からも関係性は良好と感じている。年度末にクラスごとの懇談会を開催し、パワーポイントで一年を振り返り成長をともに喜びあった。	A	A		パワーポイントでの振り返りは、解りやすく保護者も楽しみでもあるので来年度も引き続き計画する。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小学校のスタートカリキュラムへの参加をはじめ防災訓練や公開保育、評議委員会などを通して、情報共有や交流をしている	近隣校だけでなく地域とも互いに誘い合ったり訪問の機会を設けたりして昨年度より少しではあるが情報共有や交流が取れている。	A	A		来年は職員の交流もあるといい。校長、教頭、教務主任に相談してみる。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然の中での活動や地域の行事への参加等を積極的に保育に取り入れ、地域の自然や文化、農産物に関わる機会をもっている	地域の行事や近隣校や近隣園との交流も積極的に参加している。散歩や園外活動を通して、地域の方と挨拶を交わしたり農産物を見せてもらったり一緒に収穫体験や栽培方法を指導してもらったりとふれあう機会も昨年度より増えた。	A	A		地域との交流は来年度も積極的に参加していきたい。